

多焦点IOLの落とし穴

ASCRS OSDアルゴリズムから学ぶ 眼表面疾患対策

日時 2020年4月19日(日) 8:00～8:50
場所 第3会場 東京国際フォーラム Bブロック7F B7(2)

座長 前田直之 先生 湖崎眼科副院長・大阪大学大学院医学系研究科
視覚情報制御学寄附講座 特任教授

ASCRSが発表した眼表面疾患(OSD)をスクリーニングするアルゴリズムは、視機能に影響するOSDを術前に把握し、治療することが特に多焦点IOLで重要であることを示している。そこで本セミナーでは、OSD治療の基本と最新情報を共に学びたい。

略歴 1984年 高知医科大学卒業
1992年 米国ルイジアナ州立大学眼科リサーチフェロー
1999年 大阪大学眼科学教室講師
2001年 大阪大学大学院感覚機能形成学助教授
2004年 大阪大学大学院視覚情報制御学寄附講座教授
2017年 湖崎眼科副院長、大阪大学大学院特任教授



良好なQoVを目指して ～眼表面・涙液が手術に及ぼす影響～

演者1 高静花 先生 大阪大学脳神経感覚器外科学(眼科学)
視覚先端医学 寄附講座准教授

手術治療は手術そのものの成否ではなく、眼科では術後視力のみならずQuality of Vision(QoV)が重要であるのはいままでもない。最近、白内障および角膜手術における術前の眼表面評価が重要視されている。今回のセミナーでは、術前検査での注意点、術前のドライアイおよび眼表面のコントロールを中心に、眼表面・涙液が手術に及ぼす影響について述べる。

略歴 1999年 大阪大学医学部卒業、大阪大学医学部眼科入局
2007年 米国ロチェスター大学眼科 研究員(～2009年)
2008年 大阪大学大学院医学系研究科 修了
2010年 大阪大学大学院医学系研究科 視覚情報制御学 助教
2012年 大阪大学大学院医学系研究科 眼科学 助教
2017年 大阪大学大学院医学系研究科 視覚先端医学 寄附講座准教授



2ランク上を目指して ～M22で行う術前術後のドライアイ対策～

演者2 有田玲子 先生 伊藤医院 副院長・LIME研究会代表

術前にサブクリニカルなドライアイ・マイボーム腺機能不全(MGD)があった場合、術後視力が(1.5)に改善しても患者さんは不満を訴える。患者さんは見えることはもちろん、快適さを求めるもの。長らく術者を苦しめてきたこの問題に光が見えてきた。このセミナーで、2ランク上の扉を一緒にあけませんか。

略歴 1994年 京都府立医科大学卒業
2001年 京都府立医科大学大学院博士課程修了
2002年 慶應義塾大学眼科助手
2005年 伊藤医院眼科副院長
2007年 東京大学眼科臨床研究員
2011年 慶應義塾大学眼科講師(非常勤)
2012年 LIME研究会代表

